

医の道をすすむ!

親子トーク

励まし合える仲間の存在 寮生活で人間力がアップ

父 至隆にとっては父親も祖父も医師だからこの世界に馴染み深いけど、いつから医師を目指すようになったの？

息子 いつの間にか自然にという感じかな。お母さんの強い希望もあったからかもしれない。人の命を救うことができる医師は、カッコいい職業だと思うようになった。

集中できる少人数の環境と実践的な学びで大きく成長

父 確かにお母さんは、至隆のことをすごく応援していたね。

息子 塾の送迎やお弁当作りなど、いつも一生懸命サポートしてくれて本当にありがたかったよ。



父 進学先に川崎医科大学附属高校を選んだのはどうして？

息子 一番は、川崎医科大学への進学率が圧倒的に高い点。その年にもよるけど例年9割以上川崎医科大学へ進学するという数字が、とても魅力的に感じた。

父 大学受験へのプレッシャーが緩和されることで高校生活はのびのび過ごせたみたいだね。寮生活はどうだった？

息子 友人と励まし合える環境がこんなに心強いって初めて知ったよ。

テスト前は徹夜覚悟で一緒にラウンジで勉強に打ち込んだりした。

父 寮生活は人によって合う、合わないがあると思うんだけど、至隆にはすごく合ってたみたいだね。帰省するたびに一段と男らしくなった感じがして、頼もしく思っていたよ。

息子 バasketボール部の活動も楽しかったし、授業も実践的で得るものがすごく大きかった。月に一度、医科大学の先生の講義を受けたんだけど、普段の治療や手術についてリアルに話してくれて、「医師になりたい」という気持ちが増す高まったよ。難解な手術をこなした話を聞いた時はすごいなって思ったし、医師を目指すモチベーションにつながった。比較的少人数なので、集中して授業に取り組めるのも附属高校のいいところだと思う。

父 医療の世界は日進月歩。現場で働くさまざまな医師の声を聞けるのは、とても貴重だね。私たちの頃とは時代が違ふし、至隆たちは今後学ばなければいけないことが、もっとも増えていくと思う。すべての分野を同様に深く学ぶのは難しいから、自分に必要な知識・技術をまずは率先して身につけてほしいな。それから、大学に入って

も運動は続けてほしい。当直もこなせる体力づくりと、今後困難にぶつかっても乗り越えられるような強い精神力を養ってほしいと思ってる。

息子 そうだね。根性を身につけて、ストレートで大学卒業、ストレートで国家試験突破!入学時の新入生代表も務める予定だし、気合いを入れて大学生活を送りたいと思ってる。

父 医師としての知識・技術はもちろんだけど、コミュニケーション力も必須。これから出会えるたくさんの素晴らしい先輩や友人から多くのことを学んで切磋琢磨し、患者さんの立場になって物事を考え、寄り添うことのできる人間力の高い医師を目指してほしいな。



周りの人の良いところを吸収し
患者さんに寄り添える医師に

気合いを入れて大学生活スタート!
根性を身につけていきたい

(父)河内山 敬二さん

川崎医科大学附属高校、川崎医科大学卒業。
複数の病院で勤務医経験を積み、2002年に
医療法人河内山医院を継承開業する。

(息子)河内山 至隆さん

2022年3月川崎医科大学附属高校卒業、
4月から同大学に進学。
高校在学中はバスケットボール部に所属し
文武両道を実践。